

Y05a **IAU・OAOの活動から見えてきた天文教育・普及諸課題の考察**

縣秀彦、Sze-leung Cheung、Lina Canas、柴田幸子（国立天文台）

2012年4月に国立天文台に設置された The IAU Office for Astronomy Outreach (IAU・OAO) は、2014年4月に新しいスタッフ (International Outreach Coordinator) が、さらに追加スタッフが2015年5月に着任し、活動が本格的になりつつある。OAOは、定常的かつ国際的なIAUのサイエンスコミュニケーション活動を新 DivisonC や IAU・OAD (Office of Astronomy for Development) 等と協力して推進することが設置の目的で、CAP 国際会議の開催、CAP ジャーナルの刊行、OAO ニュースレターの配信、IAU ウェブページの更新などを担当している。さらに、今年度は「惑星系に名前を付けよう」キャンペーン (NameExoWorlds)、国際光年2015「宇宙からの光」(Cosmic Light, International Year of Light) の国際事業を担当した。本講演においては、これらの諸活動の成果を簡単にレビューするとともに、グローバルな活動推進から明らかになった日本の天文教育・普及の特徴について考察する。

特筆すべきは、次の2点であろう。(1) 日本のようにプロの天文学者とアマチュアとの交流が盛んな国は稀有であること。(2) 日本における諸活動は先進的であるにも関わらず、外国ではほとんど認知されていないこと。

(1) において、日本天文学会が果してきた役割は極めて大きい。IAUも本学会の仕組みを参考に、会員種別の見直しをすべきであろう。(2) においては言語の壁や文化の違いが影響していると考察されるが、グローバル化の中で日本の天文学コミュニティの果たすべき役割について具体例をあげて提案したい。